

情報連絡員総括表（2023年12月）

— 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI 値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 主要三指標におけるDI 値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI \text{ 値} = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI 値は基準値 ± 0.0 (=横ばい)で推移

※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 (回答者数 59 名 : 回収率 98.3%)

○2023年12月のDI 値は、前月との比較において、「在庫数量」「設備操業度」の2指標が改善。その他7指標が悪化した。特に「業界の景況」は13.6ポイント悪化し、DI 値はマイナス30.5となった。製造業、非製造業それぞれから、「直接消費者に販売する道を開拓しなければ将来はない」「商店街という枠組みが時代に合わなくなっている」など業界自体の将来を不安視するコメントがあった。

○「製造業」では、前月との比較において「取引条件」「雇用人員」の2指標が悪化し、その他1指標が横ばい、6指標が改善した。特に「売上高」は13.2ポイント「販売価格」は13.4ポイント改善しており、物価高騰に対する価格転嫁がされたことで連動したと思われる。織物業、生産用機械器具製造業、輸送用機械器具製造業から、売上高について「安定」や「回復」というコメントが見られた。

○「非製造業」では、前月との比較において「在庫数量」を除くすべての指標が悪化した。特に「業界の景況」は27.6ポイント悪化し、DI 値はマイナス41.4と過去12ヵ月の中で一番低い値となった。また、宿泊業では人材不足が深刻で、「人手不足対策として、経営形態を見直す事業所が増加した」「人員不足の影響で引受客室数を調整しなければならない状況が続いている」とコメントがあるなど、売上高を増やしたくても増やせない現状がうかがえる。

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2023年12月	-8.5	-16.3	33.9	-10.2	-22.1	-22.0	-10.0	-10.1	-30.5
2023年11月	-3.4	-7.0	35.6	0.0	-15.3	-20.3	-13.4	-3.4	-16.9
増減	-5.1 ↓	-9.3 ↑	-1.7 ↓	-10.2 ↓	-6.8 ↓	-1.7 ↓	3.4 ↑	-6.7 ↓	-13.6 ↓

2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値		増減		DI値		増減		DI値		増減	
売上高	2023年12月	-3.4	13.2 ポイント	↑	-13.8	-24.2 ポイント	↓	-8.5	-5.1 ポイント	↓			
	2023年11月	-16.6			10.4			-3.4					
在庫数量	2023年12月	-10.0	-10.0 ポイント	↑	-30.8	-7.7 ポイント	↑	-16.3	-9.3 ポイント	↑			
	2023年11月	0.0			-23.1			-7.0					
販売価格	2023年12月	36.7	13.4 ポイント	↑	31.0	-17.3 ポイント	↓	33.9	-1.7 ポイント	↓			
	2023年11月	23.3			48.3			35.6					
取引条件	2023年12月	-6.6	-9.9 ポイント	↓	-13.8	-10.4 ポイント	↓	-10.2	-10.2 ポイント	↓			
	2023年11月	3.3			-3.4			0.0					
収益状況	2023年12月	-16.7	10.0 ポイント	↑	-27.6	-24.2 ポイント	↓	-22.1	-6.8 ポイント	↓			
	2023年11月	-26.7			-3.4			-15.3					
資金繰り	2023年12月	-23.3	3.4 ポイント	↑	-20.7	-6.9 ポイント	↓	-22.0	-1.7 ポイント	↓			
	2023年11月	-26.7			-13.8			-20.3					
設備操業度	2023年12月	-10.0	3.4 ポイント	↑	/				-10.0	3.4 ポイント	↑		
	2023年11月	-13.4			-13.4								
雇用人員	2023年12月	-10.0	-3.3 ポイント	↓	-10.3	-10.3 ポイント	↓	-10.1	-6.7 ポイント	↓			
	2023年11月	-6.7			0.0			-3.4					
業界の景況	2023年12月	-20.0	0.0 ポイント	-	-41.4	-27.6 ポイント	↓	-30.5	-13.6 ポイント	↓			
	2023年11月	-20.0			-13.8			-16.9					

今月の業種別回答件数

	売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況							
	増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化						
製造業	食料品	2	1	0	1	2	0	1	0	1	0	1	0	1	2	1	1	0	0					
	繊維工業	2	1	0	0	2	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1	2	0					
	木材・木製品	1	2	1	1	1	1	0	2	0	3	0	2	0	3	0	2	0	2					
	紙・紙加工品	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1					
	印刷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1					
	窯業・土石製品	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1					
	鉄鋼・金属工業	0	3	0	0	0	0	0	1	0	2	0	2	0	1	1	0	0	1					
	一般機器	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0					
	電気機器	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1					
	輸送用機器	2	2	1	1	2	0	1	0	3	2	1	1	2	2	2	1	2	3					
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
非製造業	卸売業	1	2	0	1	2	1	0	1	0	2	0	1	X										
	小売業	1	2	0	2	3	1	0	1	1	3	0	2					0	0	1	1	3		
	商店街	0	2	1	2	2	2	0	1	1	2	0	2					0	2	0	2	0	2	
	サービス業	1	1	X			2	0	0	1	0	2	1					0	1	0	0	1		
	建設業	0	3				1	0	0	1	0	3	0					2	0	2	0	2	0	4
	運輸業	3	0				3	0	1	0	2	0	1					1	1	1	1	0	0	1

3.情報連絡員からの報告

製造業

パン	・従来よりパンの小売店はクリスマスケーキの注文製造を行っているが、ケーキを製造ができる職人の数も減り、また過重労働となる割には採算が合わないこともあり、取り止める店も出てきている。
織物業	・生産状況は微増で今のところ安定して推移している。生産能力に限られ、設備増強が資金的にもできない中で、現受注を平準化して生産をしている状況。今後もしばらくこの状況が続くと思われる。
製材業、木製品製造業	・今や木材の建築用材は集成材が主流。木材を接着剤で貼り合わせ、繋ぎ合わせた代物。極論として、小径で短尺の原木があれば大断面の長尺材もできるという塩梅。大阪万博会場で建設中のリングを見て、木材業界も活況ではないかと思われても仕方ないが、あの構造材も集成材であり、製材は下請けの下請けの、また下請けの仕事に過ぎない。我々製材業界で提供する無垢の木を、直接消費者に販売する道を開拓しなくては将来はないだろう。
印刷・同関連業	・工場作業員の募集しているが、応募が少ない。採用活動難航している。価格転嫁の効果が出ていたが、ここへきて買い控えが目立ち需要が停滞しているように感じる。 原材料の値上げが継続しており、さらなる価格転嫁が必要であると感じているが、業界のまとまりが弱く、値上げがしにくい状況である。 大日本印刷、トッパンがかなりの勢いで印刷物の製造から手を引いており、受給増になった会社もある。
骨材・石工品等	・I社について(売上については3ヶ月連続で前年同月を上回っている。収益も前期に比べれば良いが、経費が上がってきている。砂利採取が始まり在庫は増えつつある。)
金属製品	・生産高は4%程度減少しているが、今年度の初めからの傾向が持続している。 ・ダイハツの問題がどうなるのか先行き不安。電線がないので設備工事に不安。
生産用機械器具	・大きく状況は変わっていない中でも、少し売上が増えているところが出ている。しかし、今後どのようになるのか先行き不透明。
電気機械器具	・11月の白物家電の業界統計では出荷金額は製品価格の上昇等により2か月ぶりにプラスとなった。 ・大型冷蔵庫は販売低迷により生産はマイナスが続いている。 ・家庭用エアコンは回復基調が続いており生産はプラスとなっている。 ・業務用エアコンは国内外ともに低調で生産はマイナスが続いている。
輸送用機械器具	・中国経済の停滞により産業用ロボット関係の受注が急激な減少傾向にある。 ・四輪車の生産は全体としては回復し残業・休出での対応となっているが、受注部品により企業毎のバラツキは出ている。二輪車・マリンの生産は市況の影響もあり当初の計画を下回る状況になっている。 ・ダイハツの不正問題と生産停止、型式認証について国交省がどう対処して処分するかが、今後の課題であると共に、協力企業への影響の補償問題については、経産省が補助を始めるとの報道もある中で、今後の推移について注視が必要と思う。但しダイハツ不正は5月に発表があった後、トヨタは安全性の調査を含めた不正の調査、第三者委員会の調査、協力企業への影響など十分に検討している時間的な余裕があったと思うので、それなりのソフトランディング策は幾つかあると思うので、それほどの混乱はないと思う。ただし、日本の物づくりへの信頼性が損なわれた象徴であることの回復は、今後数年以上かかるかもしれない危惧がある。

非製造業

セメント卸売業	・10月より販売価格引上げを実施した影響もあり、左官関連を対象とした組合員の販売が伸び悩み、出荷量としては2ヶ月振りに対前年同月で5%程度減少した。
鮮魚小売業	・前年より来客数は増えたものの、消費者の節約志向の強まりにより売上は横ばいであった。また、物価上昇に対する懸念も根強く、今後も依然として厳しい状況が予想される。
各種商品小売業	・今年も、個店が廃業し組合員が減少している。また組合総数62社の内1/3の20社が商店舗(個店)をやっていない。商店街という枠組みが時代に合わなくなっている。 ・12月にスポーツイベントとクリスマスイベントを開催した。来街客は増えているが、売り上げは、ネットでのブラックマンデーでの大幅な値引きなどの影響で衣料品等は厳しい。クリスマスや年末はデパートの食品売り場はお買い物のお客様で混雑していた。12月に2店舗新規出店があった。
宿泊業	・組合員旅館の宿泊人員は、前年比96.7%と減少した。年末年始の予約状況は好調であったが、人手不足の影響で引き受け客室数を調整せざるを得ない状況が続く。 ・インバウンドが増加した。物価の高騰が収益を圧迫した。人手不足対策として、経営形態を見直す事業所が増加した。
総合工事業	・12月に入っても来年着工予定の見積依頼は多くあるが、資材が値上がりするたびにお客様の予算との乖離が大きくなっている。リフォーム工事も採算的には厳しいが多く発注されている。 ・経営状況(資金繰り)が厳しくなってきた会社が多いと聞かすが、特に仕入れがある製造業が当てはまる。コロナ融資の返済も始まっているので、要因の一つとなっている。建設業の来年の景気は、後半にいけばいくほど仕事が薄くなるような話も出ている。こういう時こそ、業界が一つになって単価を維持出来ればと思っている。
電気工事業	・電線ケーブルが品薄になっている。春頃には改善する見込みなので、パニックにならないようにとの通知が全日本電気工事業工業組合連合会からあった。
職別工事業	・一時ではあると感じてはいるが、発注が遅れているようで市況はやや冷え込んできている模様。ただ、人手不足もあり、取引条件は不変となっている。春先以降の動向に注視が必要。
道路貨物運送業	・ドバイ原油が世界のエネルギー需要の低迷懸念を背景に下落し、また、為替レートについても米国インフレの原則を受けて円高傾向となり、円建て原油コストは下落傾向にある。一方、日本国内では、補助金の減額に伴い、軽油価格は若干の値上げとなり、貨物運送業者には以前としてコスト高の悪影響が経営の足を引っ張っている。
道路旅客運送業	・コロナ前との比較において、収益率は前年同期を8.3%上回ったものの、先月の86.0%に対し82.4%とわずかに下がっており、繁忙期の12月データが気になるところである。ドライバー不足については減少傾向が収まってきているが、人材確保対策が喫緊の課題。

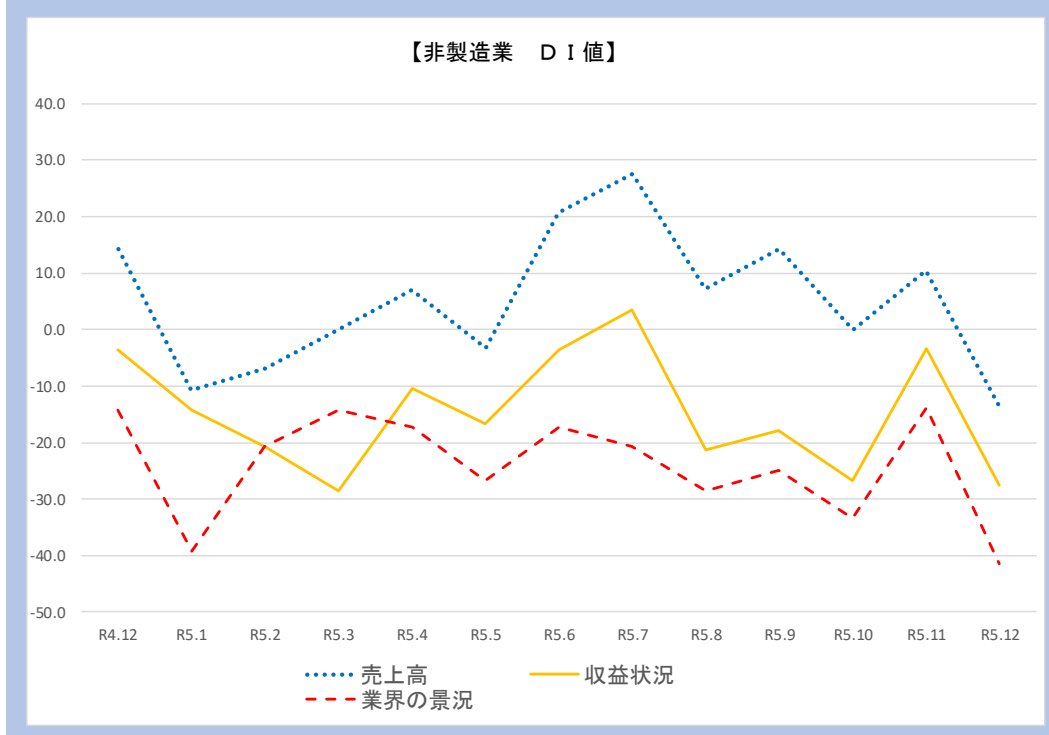
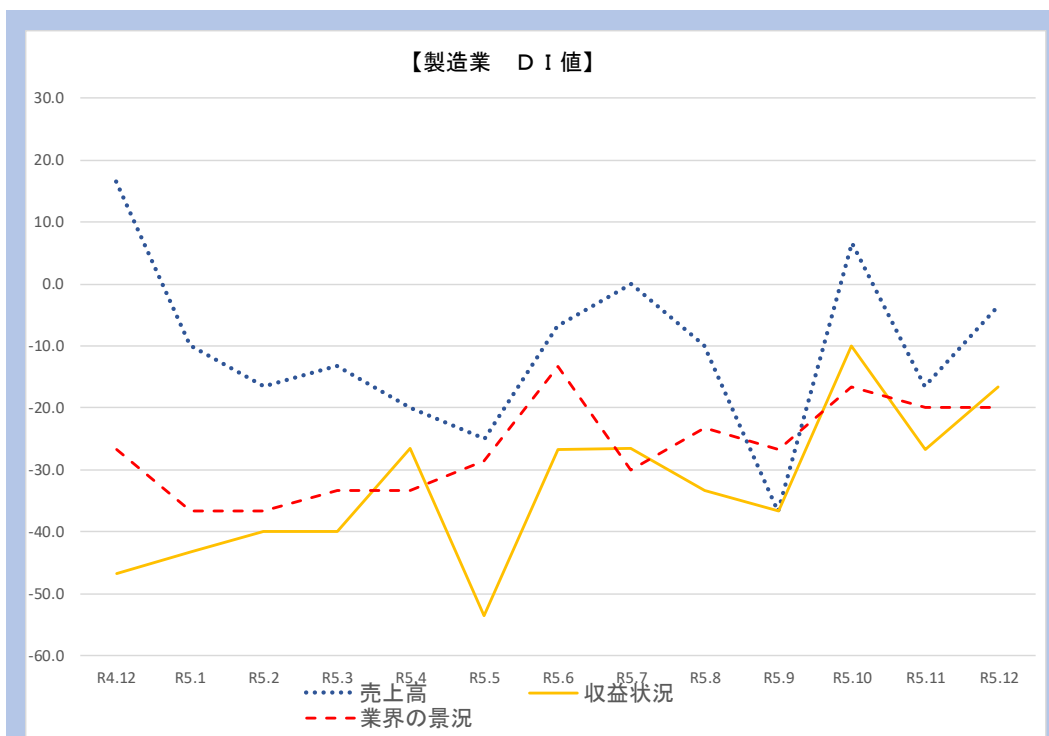
4. 主要三指標における DI 値の推移

■2022年12月期～2023年12月期までの推移

全体	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
売上高	15.5	-10.3	-11.9	-6.9	-6.8	-13.8	6.8	13.6	-1.7	-12.1	3.3	-3.4	-8.5
収益状況	-25.9	-29.3	-30.5	-34.5	-18.7	-34.5	-15.2	-11.9	-27.6	-27.6	-18.3	-15.3	-22.1
業界の景況	-20.7	-38.0	-28.8	-24.1	-25.4	-27.6	-15.2	-25.4	-25.9	-25.8	-25.0	-16.9	-30.5

製造業	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
売上高	16.6	-10.0	-16.6	-13.3	-20.0	-25.0	-6.7	0.0	-10.0	-36.7	6.7	-16.6	-3.4
収益状況	-46.7	-43.3	-40.0	-40.0	-26.6	-53.6	-26.7	-26.6	-33.3	-36.6	-10.0	-26.7	-16.7
業界の景況	-26.7	-36.7	-36.6	-33.3	-33.3	-28.5	-13.3	-30.0	-23.3	-26.7	-16.7	-20.0	-20.0

非製造業	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
売上高	14.3	-10.7	-6.9	0.0	6.9	-3.3	20.7	27.6	7.1	14.3	0.0	10.4	-13.8
収益状況	-3.6	-14.3	-20.7	-28.6	-10.4	-16.7	-3.5	3.5	-21.4	-17.9	-26.7	-3.4	-27.6
業界の景況	-14.2	-39.3	-20.7	-14.3	-17.2	-26.7	-17.2	-20.7	-28.6	-25.0	-33.4	-13.8	-41.4



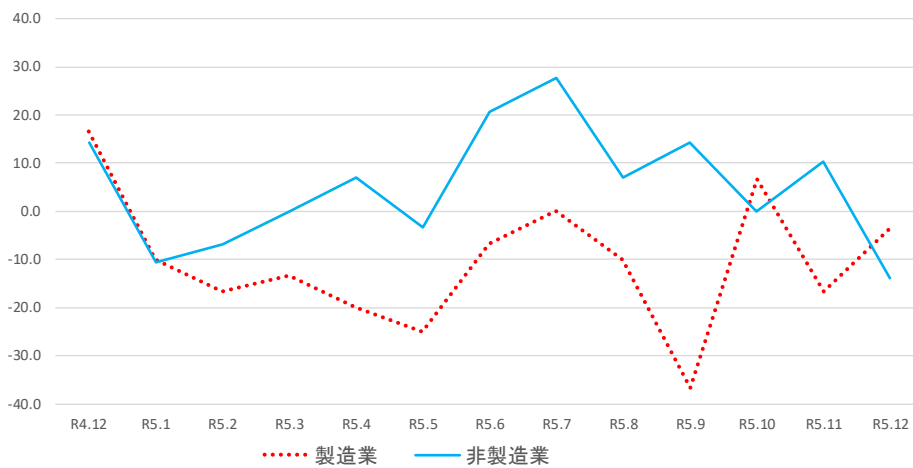
■ 2022年12月期～2023年12月期までの推移

売上高	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
製造業	16.6	-10.0	-16.6	-13.3	-20.0	-25.0	-6.7	0.0	-10.0	-36.7	6.7	-16.6	-3.4
非製造業	14.3	-10.7	-6.9	0.0	6.9	-3.3	20.7	27.6	7.1	14.3	0.0	10.4	-13.8

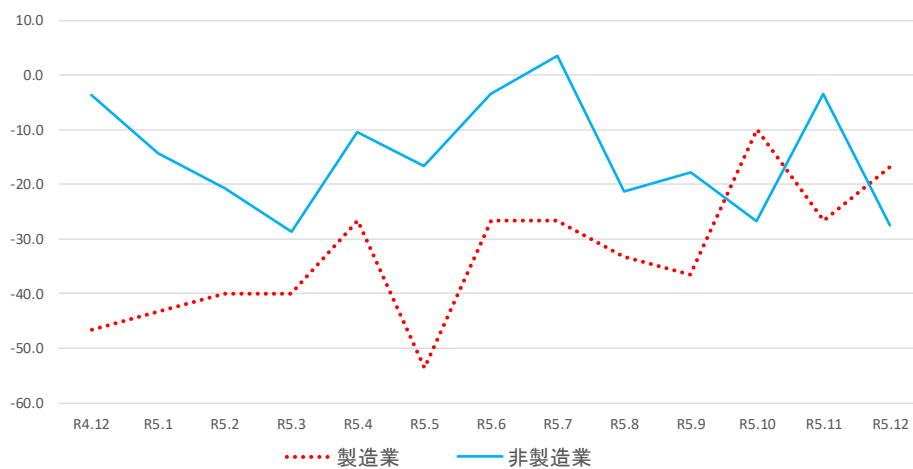
収益状況	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
製造業	-46.7	-43.3	-40.0	-40.0	-26.6	-53.6	-26.7	-26.6	-33.3	-36.6	-10.0	-26.7	-16.7
非製造業	-3.6	-14.3	-20.7	-28.6	-10.4	-16.7	-3.5	3.5	-21.4	-17.9	-26.7	-3.4	-27.6

業界の景況	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
製造業	-26.7	-36.7	-36.6	-33.3	-33.3	-28.5	-13.3	-30.0	-23.3	-26.7	-16.7	-20.0	-20.0
非製造業	-14.2	-39.3	-20.7	-14.3	-17.2	-26.7	-17.2	-20.7	-28.6	-25.0	-33.4	-13.8	-41.4

【売上高／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【収益状況／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【業界の景況／製造業と非製造業の比較 D I 値】

